



学校だより



令和8年10月 京都市立山階南小学校 校長 鈴木 洋一

Tel:592-2849 Fax:592-2851 E-mail:sankaiminami-s@edu.city.kyoto.jp

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果

4月に実施した6年生対象の「全国学力・学習状況調査」についての結果がまとまりました。本調査は、国語科・算数科・理科と共に、家庭での過ごし方や学習時間等を問う調査も実施されており、全国で約92万2千人の6年生の児童が受けました。全国の結果と合わせて本校の子ども達の概要をお知らせします。

総合結果(国語科・算数科)

全国平均の正答率と比べて、国語科はほぼ平均、算数科は少し低い結果となりました。無解答率においても、全国平均と比べて高い(無解答率が高い)ことから、問題に向きあい、最後まで取り組もうとするところに課題を抱えている児童が多いことがわかりました。以下、国語科と算数科の中からいくつかを取り上げ、概要を説明します。

国語科

本校の中では、「メモの整理の仕方の特徴をつかむ」「エッセーを読んでその文章の書き方の特徴をつかむ」という問題の正答率が、全国平均と比べて高かったです。一方、「書くこと」領域においての、大問2の四「花山さんの文章の続きの空欄に入る内容を「集めた情報から抜き出して考えが伝わるように書く」問題の正答率が低かったです。この問題は全国平均でも最も正答率が低かった問題で、引用した上で条件に合わせて書くという活動に課題が見られました。他に、2点紹介します。

●「話すこと・聞くこと」

大問1の2問目の問題です。動画の一部(映像に合わせた音声)のさつえいのくふうを選ぶ問題です。問題文にある発言の意図を説明したものとして適切な番号を選択する問題です。この問題の正答率は、57.5%でした。(全国平均 63.2%)このような動画(映像と音声)で自分の考えを伝える場合、「映像と音声」双方を関連させ、よりわかりやすくなるようにくふうする必要があります。デジタル機器に慣れているとはいえ、自分で映像や音声を関連させて作った経験が、なかなかないのと、それらが関連していることに気付けるようになるとうよいと思います。

●「読むこと」

大問3の三(1)で、「目的に応じて、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」ことを測ろうとしています。この問題では、話し合いをしている2人の子どもの話の中心(苦手だけど好きなことがあること)をとらえることが必要です。この問題の正答率は、58.9%でした。(全国平均 55.5%)

主張と事例を区別して読み取った上で、主張したことに応じた事例を選ぶ必要があります。日頃から、主張とそれに見合った事例の組み合わせに慣れておく必要があります。

算数科

算数科は、5つの領域に分かれています。今年度はすべての領域からの出題がありました。5つの領域の中では、「測定」が最も高く、「変化と関係」が最も低い正答率でした。その2つを紹介します。

●「変化と関係」

大問2の(4)です。基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる問題でした。「赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図を二つ選ぶ」ことができれば正解になります。(本校:24.7%・全国平均:34.2%)6つのテープ図から選ぶにあたり、赤いテープと白いテープの数量関係を正しく把握できるかが正解のポイントになります。

●「データの活用」

大問4の(3)です。本校、全国共に正答率が最も低かった問題です。(本校:19.2%・全国平均:17.9%)「二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と、前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数を書く問題」で、二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる問題でした。無解答率も5.5%(全国3.9%)だったことから、この表の読み取りが難しかった児童もいたようです。

児童質問紙調査から

① 基本的な生活習慣について

「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目については、「している」「どちらかといえばしている」を合わせた肯定的な割合が、全国平均よりも高い結果となりました。一方、「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の2項目については、「している」「どちらかといえばしている」を合わせた肯定的な割合が、全国平均よりも低い結果となりました。毎日の生活習慣の積み重ねが学校生活にも影響します。特に睡眠時間は、体調を整える上でも、記憶の定着という意味でも大事です。これをきっかけに、平日だけでなく、土曜日や日曜日などの休日の過ごし方にも気をつけていただければと思います。

② 自分について

「自分にはよいところがあると思いますか」(89.2%)「先生はあなたのよいところを認めてくれますか」(93.2%)「将来の夢や目標を持っていますか」(83.8%)の項目では、どれも全国平均よりもやや高い肯定的な回答でした。「人の役に立つ人間になりたいですか」(94.6%)「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」(68.9%)は全国平均とほぼ同程度、「学校に行くのは楽しいと思いますか」は、全国平均と比べて少し低い結果となりました。これらの結果をふまえ、学校でも児童一人ひとりのよいところに着目して声かけを続け、児童が自分のよいところに気付いたり、さらに、自信をもったりしていけるよう支援していきたいと思います。

保護者のみなさまへ

全国学力・学習状況調査は、結果が学力のすべてを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。結果に一喜一憂することなく、自分の課題を発見したり、学習の仕方に活かしたりするようお声かけください。また、家庭での生活や、児童の見方・考え方については、ご家庭でも取り上げていただくなど学習と日常生活が結びつくような声かけをしていただけたらと思います。ここで取り上げた国語科・算数科の結果については、校内でも結果を共有し、授業や指導の改善につなげていきたいと考えています。